

2020年9月6日

コロナ時代の隣人愛

9月に入り、少し暑さも和らいできたでしょうか。この時期、日本の教会は昨年の教皇フランシスコ来日に応えながら「すべてのいのちを守るための月間」（9月1日―10月4日）を過ごします。わたしたちのライフスタイルについて少しだけ考えてみましょう。

政府による緊急事態宣言の期間中、ステイ・ホームが呼びかけられ、多くの方が自宅にとどまりながら、どのように過ごしていたのでしょうか。「部屋の掃除」に励んだというお話をよく耳にします。わたしも例にもれず、司祭館の整理整頓に取りかかりましたが、恥ずかしいことに使用していないモノが多いことに改めて気づきました。地球上で自然破壊や異常気象が指摘されて久しいにもかかわらず、わたし自身のライフスタイルは良い方向に変化しているのか、司祭館にとどまりながら考えさせられました。今日の第二朗読「使徒パウロのローマの教会への手紙」の中で「愛は隣人に悪を行いません」（ロマ13・10）とありますが、わたしたちは地球という隣人に悪を行っているのでしょうか？ 教会は隣人愛を大切にします。しかし今日では主・キリストが示した神の愛は、人間のみならず、地球上の被造物に向けて広げていくことが求められている、そのように考える人が少なくありません。

コロナ時代を生きるわたしたちは、すべてのいのちのつながりについて、毎日、考える機会を与えられています。また、人と人とのつながりの重要性についても考えさせられるわけですが、今日のマタイ福音書とエゼキエルの預言では、〈迷っている人を再び取り戻す義務〉についてふれられています。「あなたが、わたしの口から言葉を聞いたなら、わたしの警告を彼らに伝えねばならない」（エゼ33・7）。「兄弟があなたに対して罪を犯したのなら、行って二人だけのところで忠告しなさい」（マタ18・15）。初代教会において兄弟的忠告は、大変重要な義務として捉えられていました。それは信仰共同体にとって大切な関心事項でありました。

「兄弟たち、あなたがたにお願いします。あなたがたの間で労苦し、主に結ばれた者として導き戒められている人々を重んじ、また、そのように働いてくれるのですから、愛をもって心から尊敬しなさい。互いに平和に過ごしなさい。兄弟たち、あなた

がたに勧めます。怠けている者たちを戒めなさい。気落ちしている者たちを励ましなさい。弱い者たちを助けなさい。すべての人に対して忍耐強く接しなさい。だれも、悪をもって悪に報いることのないように気をつけなさい。お互いの間でも、すべての人に対しても、いつも善を行うように努めなさい。」（一テサ5・12-15）

「隣人を自分のように愛しなさい」（ロマ13・8）というイエスキリストの呼びかけは、今日、新しい響きをもってわたしたちに迫ります。もし「気落ちしている」隣人を見つけたら、みことばと祈りをもって支えましょう。きっと日々の生活の中で隣人愛を実践する機会があるはずです。わたしたちはキリストに倣う者として、人と人のつながりを深めながら、地球上のすべての被造物とともに、主をほめたたえることができますように。

「野とそこにあるすべてのものよ、
喜び勇<いさ>め
森の木々よ、共に喜び歌え
主を迎えて」
（詩編96・12）

カトリック立川教会 主任司祭
東京教区 ヨゼフ 門間 直輝

●年間第23主日聖書朗読箇所：

- ① エゼキエル33・7-9
—答唱詩編—詩編95より
- ② ロマ書13・8-10
- ③ マタイ18・15-20